

波音

meru199782

途中まで

波音

穏やかな波の音でいつも通り目が覚めた。時計を見ると普段と同じ6時30分。部活の朝練に行こうと思って、一階に降りたところであれ？って思った。電気がついてない。普段なら7時に出勤する父親のために料理をしてもおかしくないのに。ふと、気づく。ゴールデンウィークじゃん。中日に学校があったせいでどうも実感がわからない。二度寝しようとして部屋に戻ったところで、机におかれた紙を見てテンションが下がる。

『三者面談のお知らせ』

昨日、配られたやつだ。3連休明けたら進路についての三者面談やるから決めてないやつはなにか考えてこいって言われたことを思い出した。ちょっとゆーうつ。

「ちょっと、走ってくるよ。」

起きてるかどうか分からないけど、とりあえず声をかけてから家を出て。どこ走ろっかなーとか思いながら、でも結局はいつも通りのコースになるのかなーって思いながら太陽の上りきつてない海を見ながらいつものように浜辺に準備体操しに行く。ふと、視界の端に普段ならない人影が見えた。7時頃に外を走ってる人はたくさんいても、浜辺で体操してるのは私だけだと思ってたけど。それに初めて見る。この辺のランナーとは大体知り合いだし、引っ越していたのかなって思ったけどそんな話も聞かないし。その人は体操してるんでも走ってるんでもなくてただただ、海を見て、よく分からないけど”絵になる”っていうのはこういうことを言うのかなって思った。

「あの、なにしてるんですか。」

気づいたら声をかけていた。別にそんなつもりじゃなかったのにどことなく不審者扱いしているかようになってしまってちょっと恥ずかしがってた私にその人は答えてくれた。

「海、見てるんだ。」

「なんで海なんて見てるんですか。この辺に住んでたらいつでも見れるじゃないですか。」

「僕さ、今日来たんだよね。受験前に親がおばあちゃん家行っときなさいってうるさくってさ。…海嫌いななの？」

「嫌い…、はい、嫌いです。」

「そっか。残念だな～。僕は好きだよ、海。海は生命の母って言うけどさ。海見ると本当に感じるよ。ああ、生命ってここから出来てるんだなって。あ、ごめんね。初対面でしかも海嫌って言ってたのにそんなこと言っちゃって。」

「い、いえ私こそいきなり話しかけたりしてすみません。あ、そろそろ家戻らなきゃ行けないんで。」

「そっか。じゃあ、またね。」

またって言われたのがどことなく不思議で、それでいてなんか照れくさい気がして私は小声でさようならって言ってその場を立ち去った。

「ただいま～」

「おかえりなさい。」

「おかえり。」

「姉ちゃん、おかえり～。もう朝飯食べちゃったぜ～。」

家に帰ると家族全員起きていた。珍しく私が帰ってくるのを待たなかったみたいで、もう朝食は皆食べ終わった後みたいだった。ふと、時計を見たら9時前で。浜辺で話した分普段より遅くなってたみたいだ。最後の挨拶、もっとしっかりするべきだったな～って思いながらトーストを食べていたら、唐突に母親から声をかけられた。

「あんたさ、進路どうすんの？いつまでも陸上にしがみついてもなにも始まらないんだし、そろそろ受験のことも考えたら？」

「分かってるよ。」

分かってる。分かってるよ。でも、進路って何さ。高校に行ったからって将来が決まる訳でもない。隣の席の真希なんて彼氏が行く高校行ければいいやって言ってたし。それに『受験ガチ勢』ってやつはどうせ1年生の頃から塾行って勉強してるんだし、まだ塾にも行ってない私が今から頑張ったって追いつけっこない。適当な高校に行って適当に過ごして、それで適当な大学行って適当に就職して、適当に結婚する。そんなのじゃダメなのかなって思うけど、声に出したら「今の世の中はそんなに甘くない」だの、「適当なって言うけどお金出してるこっちの身になってみなさい」だの言われるのは分かってるから「分かってるよ。」って言うしかない。先生には昨日、面談の紙を配られたときに「将来の夢」って言われた。将来の夢ってガキかっての。ああ、ゆーうつ。

「ごちそうさま。」

「ちょっと、進路どうするの？ちゃんと考えてるんでしょよね。自分の将来に関わることなのよ。」

知ってるよ。その言葉を飲み込みながら自分の部屋にこもった。

部屋にはトロフィーが飾ってある。陸上の大会でとってきたものだ。一応、ジュケンセイってやつだから机に向かって参考書を開いてみる。あ、LINE来てる。真希、彼氏と別れたのか。高校、彼氏と一緒にするって言ってたのにどうするんだか。まあ、「とりあえず爆発、ご苦労様」って送っとこ。

「行ってきまーす。」

弟の声が聞こえる。そっか、ゴールデンウィークだしねって思ったけどジュケンセイにはそんなものはないって言葉を思い出してまた、ゆーうつ。きっと、真希たちと遊びにいくって言ったら怒られるんだろうな。そういえば、朝あった人も受験生って言ってたけど、おばあちゃん家に遊びにきてんじゃん。うち、厳しいのかな。ゆーうつ。課題やらないと学校で怒られるから仕方なくこなす。

また、真希からLINE。女子会しようよって、一応ジュケンセイなんだってば。「やーだ」って返したらすぐ返信来た。あいつ、どんだけ暇なんだよ。何々？「友情と受験とどっちが大切なのさ！！！」だって。私だって遊びにいきたくない訳じゃないし、1日ぐらいいっかって思ったから「最終日なら付き合うよ」って送っちゃった。はあ、母さんに言い訳どうしょ。

「ご飯よ〜」

「…？ !は一い！」

寝ちゃった。昼ご飯食べて机に向かって、ちょっとLINEしながら勉強しようかなって思ったらい寝ちゃった。まあ、いいや。切り替えが大事って先生も言ってたし。夕ご飯はなにかなーと。

一階に降りると弟の姿がなかった。

「ねえ、拓巳は？」

「友達の家泊まってくるって言ってたわよ。あ、あんたはそんなこと考えないで勉強しなさいね。ただでさえ、今まで陸上一本でやってきて勉強してないんだから、ここで追いつかないと。」

うるさい。だからなんだよ。また、イライラしてくる。自分の進路って言ってたくせにいちいち口だしてくんなよ。でも、これも言えないからまたゆーうつ。

「いただきます。」

仕方ないから、食べてさっさと部屋に戻ることにした。きっと弟は今頃花火とかして、普段は怒られる夜更かしとかしてるんだろうな。そう考えながら部屋に戻ると、パラパラと雨が降ってきた。花火出来なくなったかってちょっとにやにやしたけど、明日浜辺に行けなくなるのかって思ったら早くやまないかなとも思った。そういえば、あの受験生の子は明日も来るのかなって少し考えちゃって、別に恋とかそんなんじゃないんだけど少しもやもやした。